

# 日本人英語学習者の リスニングプロセスに関する一考察

——アンケート調査と聞き取り予備実験から——

山 本 誠 子

## 1. はじめに

日本人学習者が直面する英語音声の聞き取りに関する問題には、大きく分けて2つの段階が考えられる。日本語と英語の音韻体系の違いや英語に見られる音声変化に慣れていないことによる音声知覚/認識のレベルと、語彙力・文法力および背景知識・推測力の欠如による意味理解のレベルである。学習者は場面や能力に応じて前者のボトムアップ処理と後者のトップダウン処理を併用し内容を理解していく（河野 2001, Rost 2016）。熟達した学習者の場合、音素の識別、単語の認知は自動化され、足りない部分を前後関係から補い、これから出てくる言葉を予測して聞くなど、トップダウン処理の割合が多くなっていく。

しかし、種々の資格試験のリスニングセクションでは、どの要因の影響で/どの処理の過程で問題が生じ、結果として不正解になったのか、原因を探ることは困難である。菅井 (2014) はリスニングテストで同程度の力を持つと判定される学習者が、音声知覚の段階で異なる問題に直面していると報告しており、リスニングの下位構成能力に差がある可能性を示唆している。本稿ではアンケート調査により学習者それぞれがリスニングの問題点と考えている項目を整理し、初級学習者がボトムアップ処理の段階で抱える音声知覚の問題点の1つである音声変化を対象に聞き取り実験を行った。

## 2. アンケート調査

### 2-1 調査方法

Dörnyei (2006) を参考に質問紙を作成し (Appendix 1)、2011年夏期にオーストラリアでアンケート調査を実施した (配布先は、グリフィス大学付属語学学校・グリフィス大学・クィーンズ大学)。回答者は40名 (男性10名・女性30名) で、年齢構成は10代15名・20代

20名・30代5名であった。

## 2-2 回答結果

回答者の学習目的は図1（無回答を除く、これ以降の図も同様）の通りで、学部/大学院進学・仕事に必要なを合わせると語学留学を上回り、学習意欲の高い集団であることがわかる。これは、学習時間が授業（平均17.3時間、SD 5.8時間）・自習（平均10.8時間、SD 5.8時間）であることから裏付けられる（図2）。

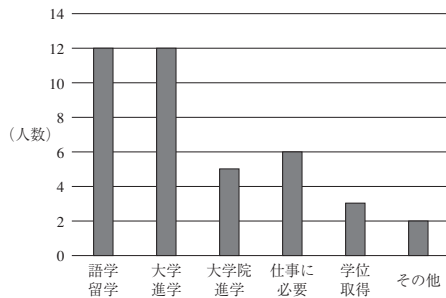


図1 学習目的

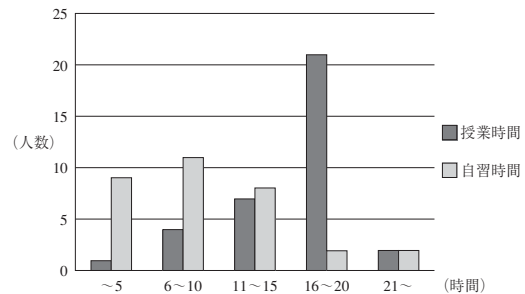


図2 学習時間

現在の英語力について、読む・書く・聞く・話す・発音・語彙・文法の7項目の中から、得意なもの苦手なものをそれぞれ2つずつ選んでもらった。その結果を図3に示す。

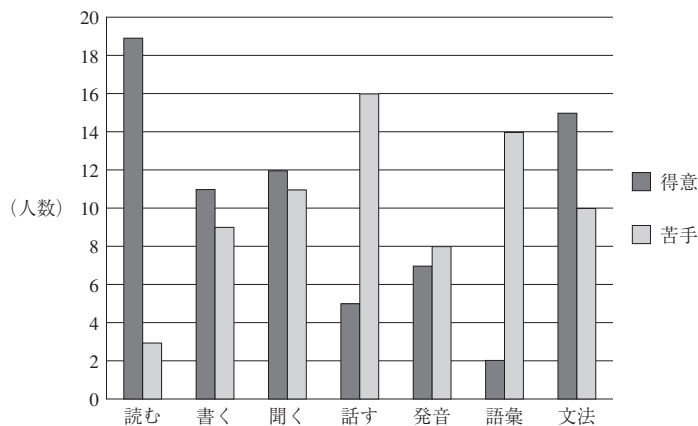


図3 得意分野と苦手分野

森下・山本・中西（2012）は、日本人大学生を対象にした調査で同じ7つの項目について得意だと思う順・伸ばしたいと思う順に番号をつけさせ、「話す」「聞く」が伸ばしたい

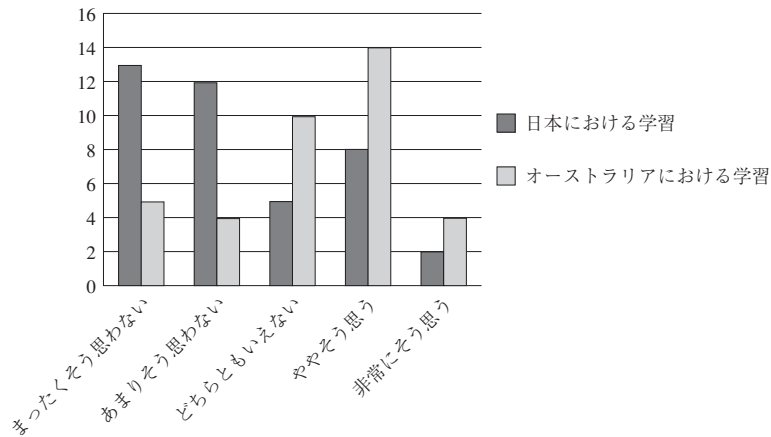
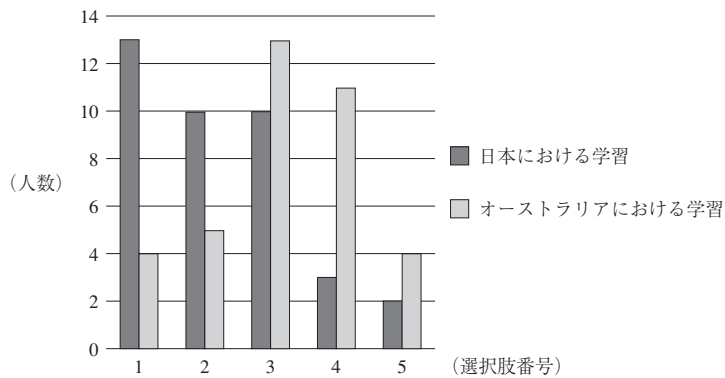


図4 リスニング能力向上に役立つ指導があったかどうかについての認識



1. ゆっくり話されれば、身近なことに関する話や指示を理解することができる。
2. 日常生活での話題や、簡単な説明・指示を理解することができる。
3. 日常生活での情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。
4. 興味・関心のある話題に関する講演・講義を理解することができる。また、テレビやラジオのニュースを聞いて、その要点を理解することができる。
5. 幅広い話題について、講演・講義が理解でき、テレビやラジオの政治・経済的なニュースを理解することができる。また、ドラマや映画の内容を理解することができる。

図5 現在のリスニング力に対する認識

(苦手な) 項目であるとしているが、本アンケートの回答者にもその傾向がみられる。インプット・アウトプット共に量的に豊富な機会を持っていても、留学中であるからこそ必

要性を痛感していると考えられる。また、上記調査と異なるのは語彙をあげている点である。これは、後に述べるリスニングに関する自由記述とも関連するが、目標とする英語力には語彙を増やす必要があると考えていることがうかがえる。

「聞く」にまだ苦手意識があるとはいえ、日本での学習時よりは現地での学習によってレベルが上がっていると感じていることは図4・図5に現れている。

日本での学習と比較して、圧倒的にインプットの量が多いことが主たる理由であると容易に推測できるが、現地でリスニング力が向上していると認識していることが示されている。

### 2-3 自由記述

自由記述から、回答者が抱える（抱えていた）問題点や能力向上に役立ったと考えている方法は、個人によって異なっていることがわかる。

#### 質問項目3 日本でのリスニング問題点

- ・長い話（講義）をされるとついて行けなくなる。話しがまとめられない。
- ・単語はある程度聞き取れても、イディオムがわからず結局文面全体の主旨がわからない。
- ・理解の遅さ。リエゾンの理解
- ・早く話されるとわからない。
- ・ニュース、テープ等はわかっても、ネイティブ同士の日常会話が聞き取れない。
- ・リスニングの機会が極端に減少する。
- ・もし将来海外旅行に行って話したときに、DVDのように止められないのに話を理解することができるのか。
- ・単語力の貧しさとスピードの速さについて行くのがやっとなりました。
- ・全くもって聞けなかったので、問題点もはっきりしてませんでした。
- ・文のまとまりで聞き取れなくて、単語でしか頭に入ってこない。
- ・英語を聞く機会があまりない。語彙力の少なさから、意味が取れない。
- ・全てを聞き取ろうとしすぎて、分からない単語を引きずってしまうこと

#### 質問項目6 現在の学習環境で感じたリスニングの問題点

- ・講義の内容を100%理解できない。スピードも速いし単語もわからないと苦勞。
- ・ノンネイティブスピーカーの英語が聞き取りづらい。若者の英語（表現、略語）が分からない。
- ・リエゾン

- ・スラングなどの聞き取りや、お年寄りの言葉の聞き取りに問題があります。
- ・スラング・細かい内容 (in, of など) が聞き取れないことがある。
- ・最初から難しいの聞きすぎ
- ・その場で間違えて聞いても分からない。
- ・単語、文法が問題です。
- ・スピーカーが女性だと分かりやすいが、男性だと分かりづらい。
- ・単語と単語がつながって発音されるので、知っている単語でも違う単語に聞こえることがあるという点
- ・リスニングの時に内容が載った視覚情報があるとそれに頼ってしまいがち
- ・話題が急に変わるとついていけないときがある。
- ・a, an, the 等の冠詞, if など、短い語は聞き落としがち。あとは、ボキャブラリーが増えないと理解できません。
- ・語彙力
- ・話すスピードが速い。
- ・会話では全く文法が違い、聞き取れない。
- ・100%聞き取れません。
- ・発音が違うので、ネイティブスピーカーの言葉が理解できない。

問題点として共通するのは、リエゾン（連結）・語彙の不足・冠詞等（機能語）の聞き逃し・スピードの速さである。また、（断片的に）単語を聞き取ることができたとしても、内容理解につながらない場合が観察される。現地で直面する問題点としては、若者言葉・高齢者の言葉・ノンネイティブスピーカーの英語などが加わり、様々な変種への対応を迫られていることがあげられる。

#### 質問項目 4 日本でリスニング力向上に役立った点

- ・洋楽・ドラマ・映画
- ・英語の教科書の CD を聞いた。
- ・IELTS の試験勉強
- ・会話、ディクテーション、シャドーイング。英語のロールプレイングゲームをしたこと  
語彙を増やしたこと
- ・自宅での継続的なリスニング、ラジオの視聴
- ・Music with seeing lyrics, movies with subtitles

- ・ BBC ニュース / CNN ニュース
- ・ 授業が All English だったこと
- ・ ネイティブスピーカーとの会話
- ・ ディクテーション (自己学習)
- ・ ネイティブスピーカーの発音, それに近いものを聞くこと
- ・ 速読

#### 質問項目 9 現在リスニング力向上に役立ったと考えていること

- ・ 映画, ネイティブとの会話, 単語や熟語そしてスラングを知ること, 自身実際にしゃべること
- ・ 海外ドラマ・映画・テレビ鑑賞。インターナショナルスチューデント同士の会話
- ・ シャドーイング (スクリプト付)
- ・ ディクテーション, スクリプトをチェックする。
- ・ 音楽: 中学校で習ったようなベーシックな単語の発音をちゃんと覚えなおすこと。音声学の授業 (特に母音)
- ・ たくさんしゃべる友達ができた。
- ・ 日常生活でのホストファミリーとの会話
- ・ 海外のコメディ番組, ニュース番組, 先生との会話
- ・ 目の前で話している人の口を見ながら話を聞こうとすること
- ・ ホームステイ

役に立ったと考えている点で共通するのは, 映画・ドラマ・音楽・ニュースの利用である。質問項目 4・質問項目 9 共にネイティブスピーカーと話すことが含まれているが, 友人・ホストファミリー等と話す機会と時間は, 当前のことだが圧倒的に現地在が優位である。それは, 具体的ではないが「ここに滞在すればわかる」というコメントにも表れているかもしれない。

#### 質問項目 7-2 現地でのリスニング指導内容

- ・ 専門知識の自習。慣れ
- ・ 指導自体なかった。
- ・ 英文は文章の頭に意味を理解するキーワードが置かれる場合が多いので, 文頭を聞き逃さないように気をつけるよう指示された。

- ・たまに歌を聞いたり，CMを見たり，YouTubeを見たり
- ・洋画を見る（リスニング+英語字幕）
- ・口語表現ならではの言い回しなど役に立ちました。
- ・どういった単語同士がつながりやすいか，その時にどのように聞こえるかということを教員がホワイトボードに書き，発音してくれる。
- ・穴埋め式。埋めなければという思いから聞く際の集中力が上がる。最初は何もない状態で聞き（本当にリスニングのみ），内容をある程度把握した上で，最終的に本文が印刷された紙を見ながら再度聞き，確認をする。
- ・All 英語なので耳が慣れてくる。
- ・リスニングは指導されるというより，勝手についてきた感じがします。
- ・聞き取れなかった文は後で先生が解説してくれます。
- ・リスニングの授業で，最初にとっても速い文を聞いて，聞こえた内容をみんなで共有する，内容を少しずつつかんでいく。
- ・常に英語を聞いている。

日本でのリスニング指導については（質問項目 1-2），回答が全く記入されていなかった。リスニングに関連する指導を他の要素と切り分けて記述できなかったのか，リスニング指導と（回答者が）感じる内容がなかったのか，あったかもしれないが思い出せないのかは不明である。あえてとりあげるとすれば，質問項目 6 の回答にあった「授業が All English だったこと」であろうか。ただ，現地のリスニング指導についても，慣れ・指導はないとの回答があることから，学習者が指導方法やその効果を明確に自覚するのは困難であるようだ。

現地のリスニング指導では，リエゾンの説明・ディクテーション・ディクトグロス<sup>1)</sup>が使用されているが，これらは日本の中学校・高等学校・大学でも取り入れられている（ところがある）。

#### 質問項目 8 リスニング力向上を実感したとき・場面

- ・会話がスムーズにいった時。電話で対応できた時。映画を見た時
- ・留学して 2 ヶ月で「向上した」と実感しました。自然と英語が口から出てきたことがきっかけになりました。
- ・2 回目にオーストラリアに来た時に，以前より聞き取れるようになっているのを感じた。ニュースを聞いていて，細かい 1 語 1 語にまで注意を払うようにしていたら，どこが聞

き取れていないのかが、自分で分析できるようになった。

- ・ オーストラリアで修士をとるあたり：いろんな国の英語がちゃんと分かる。
- ・ Aussie English に関しては3週間目くらい。いつものニュースで、入ってくる情報量が増えた。
- ・ あまり自覚しているきっかけというものが思い当たらない。ある日突然感じるというよりは、「先日学習した単語が、今日のリスニングでは聞き取れたな」などの日々の進歩を感じる形のほうが多いかもしれません。
- ・ 2ヶ月くらい。たくさんしゃべる友達ができた。
- ・ 1週間過ぎた頃に、最初は長い時間話し続けられると途中で全くわからなくなっていたのに、多少長くても大体正確に聞き取れるようになった。
- ・ 大学の授業で洋画を英語+英語字幕で見たことを期に自習学習として洋画を見るようになりました。生の英語を聞くことで、リスニング力が向上してきたと思います。
- ・ 最近、シェアハウスを探すので色々な人と英語で話したとき
- ・ オーストラリアに来て3~4ヶ月経った後、テレビのニュースの内容が大まかに理解できるようになった。
- ・ 7ヶ月くらいたった時、講義の内容が始めの週より分かるようになってきた（まだまだ分からないところもありますが）。
- ・ 徐々に聞き取れるようになってきているので、きっかけは思いつきません。
- ・ 日々の生活が全て英語なので、大分耳が慣れてきたと思う。
- ・ ホストファミリーや友達との会話がスムーズになってきた時。授業に問題なくついていけるようになった時
- ・ 大学に入ってから。ALTと話す機会が多くなって、頭でどのように聞かれたかいちいち日本語で考えなくても分かるようになった。英語で半日程映画やドラマを見ていたら、いつのまにか字幕ではなく英語だけを聞いていた時。
- ・ 授業で、1日目よりも2日目と、日が経つごとに抵抗がだんだんとなくなっていったり、他の国の子が話す英語も、少し理解できた時
- ・ 今はまだわからない。

リスニング力向上をいつ・どのように認識したかは、回答者が向上のレベルをどこに設定しているかとも関連することから、類型化することは難しい。そのため、ここでは「いつ」に関する情報を記載するに留めることとする。内訳は、1週間4名、1~2ヶ月5名、3~4ヶ月2名、6~7ヶ月3名、12ヶ月1名であった。ごく初期に、聞こえ方の違いを



認識するのは1週間であるとの報告は、日本の学習環境における集中訓練の期間として参考にできるかもしれない。

### 3. 聞き取り実験

#### 3-1 背景

アンケート調査からもわかるように、listening comprehension の問題点の1つは、連続音声から単語を切り出す部分にある。母語には現れない音声変化は、辞書に記載された単独発音とは異なる聴覚印象を与えるため、この段階に問題があると、「知っている単語なのに聞き取れない」、それが原因で「何を言っているかわからない」ということになる。学習者は oral vocabulary が不足しており、聞き間違い (misperception) も種々発生する (Bond 1999, Shockey & Bond 2007)。Field (2008) は、外国語音声の decoding processes について、...less experienced listeners rely heavily upon processing at word level... we should perhaps focus our attention first on practice at word level and at the level of the recurrent lexical chunk. と述べて、初級学習者は word level/chunk level の聞き取りに問題に抱えており、音声教育もまずはこのレベルに注意を向けるべきであるとしている。そこで音声変化に注目した聞き取り実験を行い、問題点の要素を整理し、音声から意味へのつながりの自動化を促進するような教材作成の基礎データとしたい。

#### 3-2 方法

音声刺激は、究極の英語リスニング Vol.1 (SVL: Level 1<sup>2)</sup>) (2008) から、音声変化 (脱落・連結・同化) が起こる2~4語の部分を選び、Say \_\_\_\_\_ this time. (今度は~とってください) というキャリア文に入れて作成した。実験はオンラインで実施され、実験参加者は練習問題2問に続いて、対象語群59問 (2語17問, 3語34問, 4語8問)+ゲーム16問の合計75問をそれぞれ最大2回まで聞き、聞こえた語をキーボードで入力した (実験語群は Appendix 2, 画面遷移は Appendix 3 参照)。英単語が思いつかない場合はカタカナでも入力でき、入力不可能な場合は、空欄でも次の問題に移ることが可能であった。実験参加者は関西の大学に在籍する学生175名 (男性112名・女性63名) であった。

集計に当たっては、すべての単語が正解である場合を1、それ以外を0としてカウントした (単純なスペリングミスと判断できる回答は、正解とみなした)。音声変化に対応でき、かつ意味が理解できている段階を正解として分析した。

### 3-3 結果

単語数と音声変化の種類による正答率（すべての単語が正解であった場合）を図6に示す。

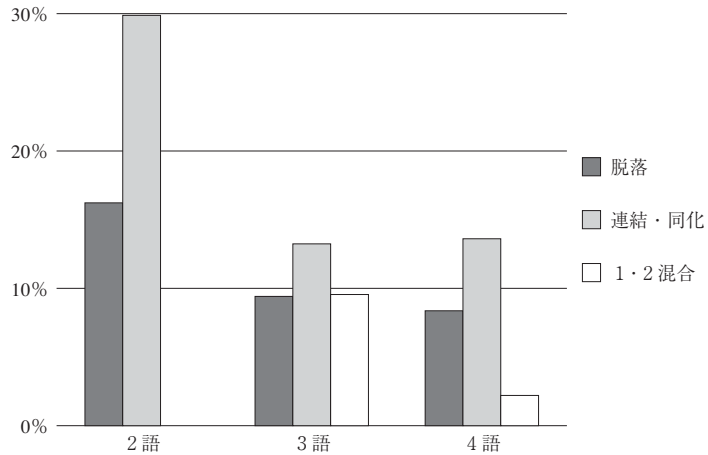


図6 単語数と変化のタイプ別の正答率

図6から、基礎的な語彙であっても、全体的に正答率が低い傾向がわかる（最も高い正答率でも29.8%である）。予想できることではあるが語数が少ない方が多少正答率が高い傾向にあり、2語とそれ以外で正答率に開きがある。変化の種類（‘消えるタイプ’＝脱落と‘つながるタイプ’＝連結・同化）では、消えるタイプの方が、聞き取りが困難であることが示されている。

2語と3語の語群で具体的に正答率（すべて正解）が高い問題と低い問題を見てみると、下記のようなになる。

#### 正答率が比較的高い問題

- 2語：get out (75.4%) (tの弾音化<sup>3)</sup>なし)
- good idea (68.6%), some more (52.0%)
- 3語：you like it (65.1%), difficult to make (49.7%)

#### 正答率が低い問題

- 2語：silk cloth (0%), both things (2.3%)
- 3語：that hot dish (0%),
- write it down (1.1%), get a cab (1.1%) (tの弾音化あり)

図7は音列が進むにつれて何も記入していない回答欄が増加していることを示している。

音は聞こえていても、知覚した音の表象を形成できず、その結果心的辞書（mental lexicon）にアクセスできない状況であることがわかる（問題毎の回答結果は、Appendix 4 参照）。

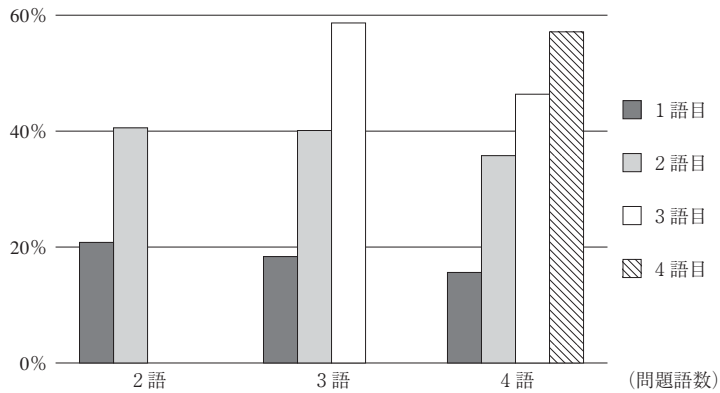


図7 空白率（回答欄に何も記入しなかった割合）

変化の位置による正答率を図8に示す。3語・4語の問題で、2回音声変化が起こっている項目について、位置（前半・後半）による正答率を表している。概ね前半の方が後半よりも正答率が高いこと、前半で聞き取りに問題が起こると、後半にも影響していることがわかる。

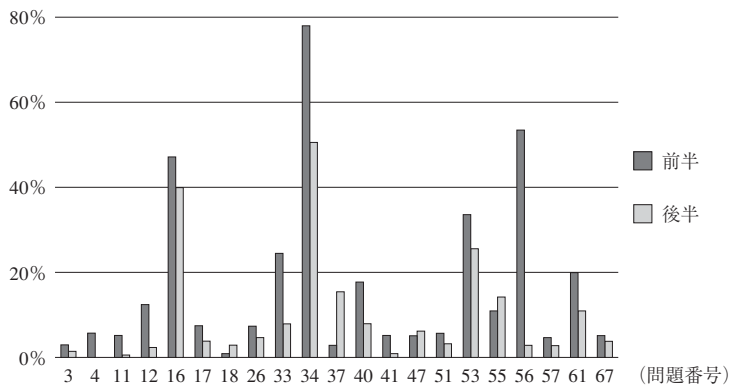


図8 音声変化が起こる位置による正答率

図9は品詞の観点から、語数別に内容語（content word）・機能語（function word）の2つのグループの正答率を表している。

アンケートの自由記述にもあったように、冠詞・代名詞・前置詞等の機能語は、聞き取

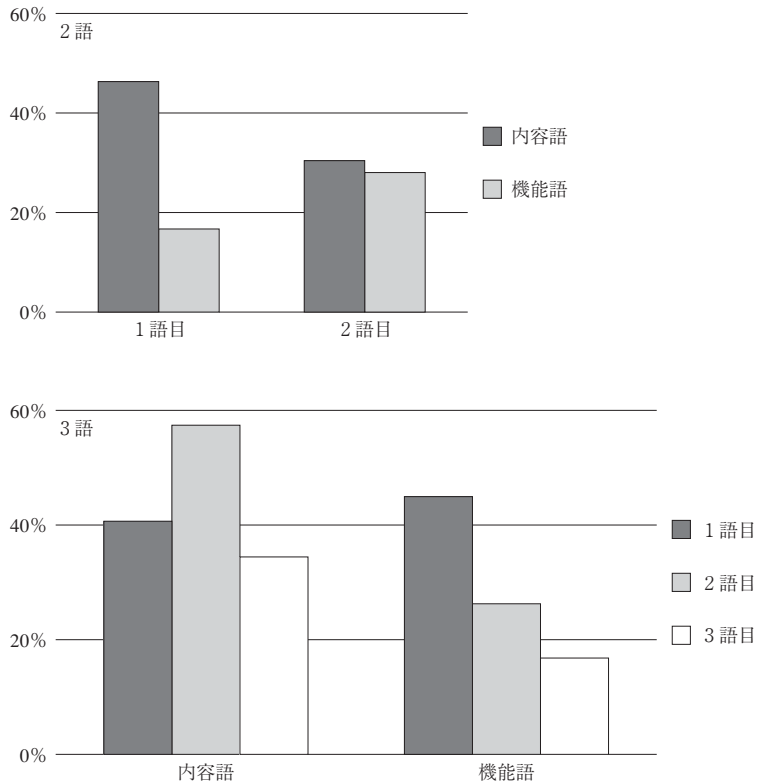


図9 内容語・機能語別の正答率

りが難しい。その理由として、機能語には通常ストレスが置かれなため聞こえ度が低いことがあげられる。本実験では、キャリア文に入れた音声をかかせたが、文脈のないところか代名詞が刺激として与えられることが不自然であったことも理由かもしれない。図8の問題37 might get worse にかして言えば、might, get 共に t の脱落が起こっているにか関わらず might get の部分の正答率よりも get worse の部分の正答率が高いということは、機能語である助動詞 might ではなく、内容語の動詞 get にストレスが置かされていることも原因であると考えられる。

次に、誤答にかして特徴的な/複数回答があつた例をあげる。

- ・ hold your hands → hold デュア hand
- ・ give us a call → give a スコール
- ・ put it on → プリウス
- ・ just then → just ben/pen/end/them/than

- ・ on your side → an/are/ your side
- ・ write it down → ride down
- ・ piece of ice → peace advice
- ・ at this point → a disappoint
- ・ list of books → rest/lest/last (of) box
- ・ might get worse → my get worth/works
- ・ stop playing → star/stay, play/plain
- ・ silk cloth → self, course/calls/color,
- ・ not at all → no/know, the/that, ノーラドゥ
- ・ take your hat off → take your ハロー/ハダーフ, take your had/hand/head/
- ・ all of us → always/oldest/almost, オーワス/オーガス/オーラス

誤答のパターンは、音素の違い・音節数の違い・単語境界の違い・単語数の違い、音声変化を聞き取っていても単語にアクセスできない現象、母語の単語に置きかえる現象等が、単独でまたは複数が合わさって形成されている。

下記の自由記述からは、アンケート調査と同様の問題点が観察できるが、特にボトムアップ処理の段階に問題点がある。音声変化はある程度の早さで起こるものであり、この段階をクリアすることが chunk レベルから文レベルの理解に必要となる。双方にあった「男性の声が聞き取りにくい」という点については、今後声の低さ以外の要因も探る必要があるかもしれない。

- ・ 早いと聞き取れない。聞き取れたとしてもその単語が思い浮かばない。
- ・ 知っている英語でも、いざというときになかなかわからないことが分かった。
- ・ 細かい発音を聞き取る練習があまりできていない。
- ・ 単語と単語の間がつながっていて聞き取りにくいことが多いです。
- ・ 男の声が聞き取りにくい。文が長かったら聞き取れない。
- ・ リスニングは普段聞いている音よりも発音がいいので混乱したりしてわからなくなります。
- ・ なかなか英語を聞く耳が育たない。つながりがわかりにくい。普段 CD で聞いている英語なら理解できるが、話す相手が現実の世界の人になると、わかりにくくなる場合もある。

## 3-4 考察

初級学習者にとって、音声変化を含む語群の聞き取りは、対象が基礎的な語彙であっても困難を伴う。回答結果からは、2語よりも3語・4語の方が正答率が低い傾向にあり、語数の増加が影響を与えていることがわかる。語数が多くなれば音声変化の数も増加する可能性が高くなることから、当然の結果といえるだろう。しかし、音声変化の種類によっても正答率は変化している。脱落の方が連結・同化よりも正答率が低いのは、単独で発音された時よりも音の情報の欠落を伴うことが原因であると考えられる。

語数や音声変化の種類という観点で示された結果は大まかな傾向は示しているが、各問題の正答率にはばらつきがある。例えば表1の問題では、形容詞＋不定詞＋動詞という語群の構成が同じであっても、正答率はかなり異なる。脱落が起こっている単語の語彙リストにおける順位はあまり変わらないにも関わらず (JACET 8000 の順位: hard (347), difficult (336)), 問題15では hard だけではなく語群全体の正答率も低い。

表1 問題15と問題44の正答率比較

正答率	全体	1語目	2語目	3語目
#15 hard to answer	6.3%	8.6%	6.9%	6.9%
#44 difficult to make	49.7%	59.4%	70.9%	76.6%

それでは、hard をどう聞いたか (誤答率) を見てみると、hold 24.0%, heart 2.3%, hot 13.1%, her 6.3% となっており、語群全体の意味の理解を妨げる回答になっている。短い単語ほど、脱落による情報の欠落の割合が大きいと考えられる。つまり、difficult の語末の t が脱落により聞こえないとしても、その直前までの情報が豊かである (3音節のうち2音節の情報は保持されている) ため知覚は比較的容易だが、hard の場合語末の d の脱落は、単音節の音韻の1つの情報を奪うことであり影響が大きくなると推測される。

これらの結果から、音声知覚/単語認識のレベルでは、学習教材には消えるタイプの音声変化をつながるタイプよりも多めに配置するとともに、音節数の少ない単語により焦点を当てた聞き取り訓練が必要であると考えられる (connected speech (特に reduced forms) に着目した教材には、Brown & Kondo-Brown (2006) がある)。Shockey & Bond (2007) は、phonological competence について下記のように述べて、音声知覚・単語認識の自動化について触れている。教材にも、音そのものへの敏感さを訓練する内容が必要であると考えられる。

We contend that speakers of English use knowledge of casual speech variants informing

a percept and that the mapping between variants and the lexical entry is part of phonological competence. Skillful listeners reconstruct sounds which have been modified or omitted in pronunciation without knowing they are doing it. They can also fail to recognize forms as reduced and take them at face value.

本稿の聞き取り実験では、音声刺激をキャリア文に入れたが、回答欄には文頭の‘say’や該当語群直後の‘this’も含まれる場合があった。産出実験においては、キャリア文は発話の自然性を保つためにしばしば使用されるが、本稿の聞き取り実験の目的には必須ではないかもしれない。次の実験では、問題そのものに集中できる音声提示を考えたい。また、問題作成においては、今回統制できなかった項目（音環境・音節数・音節構造・品詞・強勢・音声変化の位置）についてバランスを取り、統計処理を行いたいと考えている。

また、日本人英語学習者が、聞き取りが困難と思われる音列にどのような反応をするかについて、ディクテーションだけではなく、初級学習者と上級学習者の反応時間（RT: Reaction Time）（「わかった」と判断するまで）を計測し、文理解に必要な時間的資源にどの程度影響があるのか比較したい。

#### 4. 終わりに

リスニングについて、「すべての語を聞きとることができなくても、重要な語をつなぎ合わせて内容を理解する」という側面はある。確かに、母語であっても一言一句聞きもろさずに聞いているかという点、そうではない場面が見うけられる。しかし、内容語の聞き取りに問題があれば、つなぎ合わせる要素が減少し、内容理解に負の影響を与えることになる。意味理解に最低限必要な語を聞き取る能力を伸ばすことが必要となる。

近年の英語教育研究では、語彙知識の重要性が再認識されるようになっており、特に定型表現の教育現場への応用研究が進んでいる。リスニング教材開発には、chunk / connected speech 単位を基礎とする共に定型表現との融合を図ることも重要であろう。

#### 謝辞

- \* 経営学部では隔年でグリフィス大学附属語学学校における夏期研修を行っているが、その引率者として現地に滞在していた森下美和先生（現グローバル・コミュニケーション学部准教授）がアンケート用紙の配布・回収を担当してくださった。お礼を申し上げます。
- \* 林良子教授はじめ神戸大学国際文化学研究所の先生方からは、本稿予備実験へのコメントおよび本実験への貴重なアドバイスをいただいた。感謝いたします。
- \* 聞き取り実験のデータ整理にあたり、卒業生の城戸章仁君にお世話になった。

#### 注

- 1) ある程度まとまった英文を学習者に聞かせ、その英文を協同作業で復元させる学習法。ディクテーションとは異なり、英文をそのまま書き取る必要はなく、語句の形式よりも内容重視の活動である。内容の再構築の過程で、文法知識の復習・確認を行うこともできる。
- 2) 日本の英語学習者にとって有用な英単語12000語をレベル分けした語彙リスト「SVL\*1」の最初の1000語のみを使用している。英語の基礎を成す必須単語であり、初級学習者であっても既知であると考えられる。
- 3) アメリカ英語の特徴の1つで、主として母音間（後続母音には強勢がない）の環境で起こる。

#### 参 考 文 献

- Bond, Z. S. (1999) *Slips of the Ear: Errors in the Perception of Casual Conversation*. NY: Academic Press.
- Brown, J. D. & Kondo-Brown, K. (2006) *Perspectives on Teaching Connected Speech to Second Language Speakers*. Honolulu: University of Hawaii Press.
- 大学英語教育学会基本語改訂特別委員会 (2016) 『大学英語教育学会基本語リスト新 JACET 8000』東京：桐原書店
- Dörnyei, Z. (著) (八島智子・竹内理訳) (2006) 『外国語教育学のための質問紙調査入門—作成・実施・データ処理—』東京：松柏社
- 英語出版編集部 (2008) 『究極の英語リスニング Vol. 1』東京：アルク
- Field, J. (2008) *Listening in the Language Classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 河野守夫 (2001) 『音声言語の認識と生成のメカニズム』東京：くろしお出版
- 森下美和・山本誠子・中西のりこ (2012) 「非英語専攻の大学生の英語学習に関する意識と統語知識：統語処理のトレーニング教材作成のための予備調査」, 経営学論集第9巻第1号, 89-99.
- Rost, M. (2016) *Teaching and Researching Listening (3rd edition)*. NY: Routledge
- Shockey, L & Bond, Z. S. (2007) “Slips of the Ear Demonstrate Phonology in Action.” *Proceedings of ICPHS*, 1385-1388.
- 菅井康祐 (2014) 「音声に特化したリスニングテスト作成の基礎研究—ディクテーションとインタビューによる予備調査—」 生駒経済論集第12巻第1号, 47-56.



Appendix 1 アンケート用紙 (質問項目のみ)

日本人英語学習者のリスニング過程に関する調査

選択式の項目については、特に指示がない限り、該当する番号に1つだけ○をつけてください。

記述式の項目については、覚えている範囲で結構ですので記入をお願いいたします。

<回答者に関する項目>

性別 ( 1. 男 2. 女 )

年齢 ( 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 )

日本での英語学習歴 ( ) 年)

日本で取得した英語関係の資格 (例: 実用英語技能検定の合格級、TOEIC や TOEFL の得点等、複数回答可)

( )

英語を第1言語とする国での英語学習歴 ( ) 年)

現在取得している英語関係の資格 (例: TOEIC, TOEFL, IELTS の得点等)、または英語力を示すもの (複数回答可)

( )

現在の教育機関で学ぶ目的

- ( 1. 語学留学 2. 大学進学 3. 大学院進学 4. 仕事に必要な語学力を身につけるため  
5. 学位取得 6. その他 ( ) )

<日本における学習について>

1-1. 日本の教育機関で、英語リスニング指導を十分に受けたと思いますか。

1. まったくそう思わない 2. あまりそう思わない 3. どちらともいえない  
4. ややそう思う 5. 非常にそう思う

1-2. その際のリスニング指導は、具体的にどのような内容でしたか。

(中学校: )

(高等学校: )

(専門学校/大学: )

2. 日本での学習の結果、ご自身の英語リスニング力をどう判断していましたか。
1. ゆっくり話されれば、身近なことに关する話や指示を理解することができる。
  2. 日常生活での話題や、簡単な説明・指示を理解することができる。
  3. 日常生活での情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。
  4. 興味・関心のある話題に関する講演・講義を理解することができる。また、テレビやラジオのニュースを聞いて、その要点を理解することができる。
  5. 幅広い話題について、講演・講義が理解でき、テレビやラジオの政治・経済的なニュースを理解することができる。また、ドラマや映画の内容を理解することができる。
3. 日本での学習期間中、英語リスニングの問題点と考えていたことは何ですか。  
( )
4. 日本での学習期間中、英語リスニング力向上に役立ったことは何ですか。  
( )

<現在の学習状況について>

- 5-1. 現在学んでいる教育機関名 ( )
- 5-2. 現在在籍しているコース・クラス ( )
- 5-3. 現在使用している主なテキストや資料の名称  
( )
- 5-4. クラスの人数 (約 人) (←ご自身にとって、中心となるクラスについてご回答ください)
- 5-5. 1週間の授業時間 (記入例: 1日平均3時間×5日=15時間)  
( )
- 5-6. 1週間の自習時間 (記入例: 1日平均1.5時間×5日=7.5時間)  
( )
6. 現在の学習環境で感じた、英語リスニングの問題点は何でしたか。  
( )
- 7-1. 現在受けている(受けた)授業の中で、上記の問題点が軽減または解決されるような指導がされたと思いますか。
1. まったくそう思わない
  2. あまりそう思わない
  3. どちらともいえない
  4. ややそう思う
  5. 非常にそう思う

7-2. その際のリスニング指導は、具体的にどのような内容でしたか。

( )

8. ご自身の英語リスニング力が「向上した」と感じた時期と、そのきっかけや場面について思いだせる限り詳しく述べてください。

( )

9. 現在、授業内外を問わず、英語リスニング力向上に役立ったこと考えていることは何ですか。

( )

10. 現在のご自身の英語リスニング力をどう判断していますか。

1. ゆっくり話されれば、身近なことに関する話や指示を理解することができる。
2. 日常生活での話題や、簡単な説明・指示を理解することができる。
3. 日常生活での情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。
4. 興味・関心のある話題に関する講演・講義を理解することができる。また、テレビやラジオのニュースを聞いて、その要点を理解することができる。
5. 幅広い話題について、講演・講義が理解でき、テレビやラジオの政治・経済的なニュースを理解することができる。また、ドラマや映画の内容を理解することができる。

11. ご自身の英語について、次の項目から比較的得意な項目を 2つ 選んでください。

1. 読む
2. 書く
3. 聞く
4. 話す
5. 発音
6. 語彙
7. 文法

12. ご自身の英語について、次の項目から比較的苦手な項目を 2つ 選んでください。

1. 読む
2. 書く
3. 聞く
4. 話す
5. 発音
6. 語彙
7. 文法

ご協力ありがとうございました。

**Appendix 2** 問題語群 (分析対象のみ: 変化のタイプ1 = 脱落, 変化のタイプ2 = 連結・同化, 変化のタイプ3 = 1・2混合)

問題番号	単語数	変化のタイプ	変化の数	問題語群
1	2	1	1	great day
2	2	1	1	hot tea
3	3	2	2	bring it in
4	3	1	2	that hot dish
5	2	2	1	what else
7	3	2	1	hold your hands
8	2	2	1	five visitors
9	2	1	1	just then
10	2	2	1	good idea
11	3	2	2	worried about him
12	4	2	2	give us a call
14	3	2	1	on your side
15	3	1	1	hard to answer
16	3	2	2	take it easy
17	4	1	2	get used to it
18	3	3	2	write it down
19	3	2	1	you like it
20	2	2	1	get over
24	2	2	1	get out
26	3	2	2	piece of ice
27	4	2	1	give me a second
28	3	2	1	get a cap
29	3	1	1	at this point
30	3	2	1	out of cash
31	3	2	1	list of books
33	3	2	2	put it on
34	4	2	2	as you like it
37	3	1	2	might get worse
38	2	2	1	some more
39	3	2	1	have a cold
40	3	2	2	give it up
41	4	2	2	cut it in half
42	2	1	1	big plan
43	2	1	1	stop playing
44	3	1	1	difficult to make
45	3	2	1	come with it
46	2	1	1	silk cloth
47	3	2	2	not at all
48	4	3	2	would it be better
49	3	1	1	I could try
50	3	2	1	from many countries
51	3	2	2	turn it on
53	3	3	2	take it back
55	3	2	2	half an hour
56	4	2	2	take your hat off
57	3	2	2	all of us
59	2	1	1	bad dream
60	2	2	1	right away
61	3	2	2	look it up
62	2	2	1	searched around
63	3	1	1	at the end
64	2	1	1	both things
65	3	3	2	made from milk
66	2	1	1	with them
67	3	2	2	put it off
69	3	1	1	decided to leave
70	3	2	1	such a request
72	4	1	1	what do you want
74	3	2	1	get a cab

Appendix 3 実験の画面遷移

### 英語音声聞き取りに関する調査

この調査は、英語リスニングの問題点を把握する目的で実施します。  
解答者情報および調査結果は、研究以外の目的で使用することはありません。  
この調査に協力していただけの方は、該当箇所記入の上、「同意する」をクリックして次にお進みください。

①年齢(入力必須)  歳

②性別(入力必須)  男性  女性

③英語に関する資格 (TOEICかTOEIC Bridgeの点数、英検合格級など)をお持ちの方は、思い出せる範囲でかまいませんので入力してください。

④英語圏に1ヶ月以上滞在したことがある方は、その期間を入力してください。  
 年  ヵ月

1

### アンケートについての説明

今から、  
『 Say  this time. 』  
(今度は、と言ってください)

という英語の文を聞いて頂きます。  
空欄に相当する英語の音声を書き入れてください。  
英単語で入力できない場合は、カタカナで入力してもかまいません。  
すべて聞き取れない場合は、聞き取れた部分だけでも入力して下さい。  
音声は2回まで聞くことができます。

2

### 練習問題①

「音声を聞く」ボタンをクリックし、空欄部分を聞き取り入力してください。  
英単語で入力できない場合は、カタカナで入力してもかまいません。  
すべて聞き取れない場合は、聞き取れた部分だけでも入力して下さい。  
音声は2回まで聞くことができます。

Say  this time.

解答が終わったら、『練習問題②に進む』をクリックしてください。

3

### 練習問題②

「音声を聞く」ボタンをクリックし、空欄部分を聞き取り入力してください。  
英単語で入力できない場合は、カタカナで入力してもかまいません。  
すべて聞き取れない場合は、聞き取れた部分だけでも入力して下さい。  
音声は2回まで聞くことができます。

Say  this time.

解答が終わったら、『次へ』をクリックしてください。

4

### 【練習問題の解答】

練習問題① Say  this time.

練習問題② Say  this time.

※実際の問題では、解答は表示されません。

では、これから実際の問題に進みます。  
問題は、75問あります。  
一問ごとに「次へ」のボタンで進み、前の問題には戻ることはできません。  
準備ができたなら、「問題を開始する」をクリックしてください。

5

### 問題1 (1/75)

「音声を聞く」ボタンをクリックし、空欄部分を聞き取り入力してください。  
英単語で入力できない場合は、カタカナで入力してもかまいません。  
すべて聞き取れない場合は、聞き取れた部分だけでも入力して下さい。  
音声は2回まで聞くことができます。

Say  this time.

解答が終わったら、『次へ』をクリックしてください。  
次の画面に進んだ後は、このページに戻ることはできません。

6

問題2 (2/75)

「音声を聞く」ボタンをクリックし、空欄部分を聞き取り入力してください。  
英単語で入力できない場合は、カタカナで入力してもかまいません。  
すべて聞き取れない場合は、聞き取れた部分だけでも入力して下さい。  
音声は2回まで聞くことができます。

音声を聞く

Say  this time.

解答が終わったら、『次へ』をクリックしてください。  
次の画面に進んだ後は、このページに戻ることはできません。

次へ

7

問題75 (75/75)

「音声を聞く」ボタンをクリックし、空欄部分を聞き取り入力してください。  
英単語で入力できない場合は、カタカナで入力してもかまいません。  
すべて聞き取れない場合は、聞き取れた部分だけでも入力して下さい。  
音声は2回まで聞くことができます。

音声を聞く

Say  this time.

解答が終わったら、『次へ』をクリックしてください。  
次の画面に進んだ後は、このページに戻ることはできません。

次へ

8

リスニング問題は終了しました。

最後に、皆さんが普段英語学習の中で、特にリスニングの問題点と感じていることについて、自由に回答し、『送信する』をクリックしてください。  
特に入力することがない場合は、空欄のまま『送信する』をクリックしてください。(必ず『送信する』をクリックしてこのアンケート終了してください。)

送信する

9

アンケートはすべて終了しました。  
ご協力ありがとうございました。



10

Appendix 4 語数別・変化のタイプ別の正答率一覧

